

登場人物

「夢のヒーロー」

のだくみこ

吉本勇介（23）

そば屋の従業員
夢のヒーロー

佐々木紀一（55）

そば屋の店主

松田理子（35）

そば屋の従業員

外国人・犯人①

外国人・犯人②

外国人・犯人③

CA

TVアナウンサー

TVリポーター

○手打ちそば屋

店主の佐々木紀一（55）、吉本勇介（23）、ウエートレスの松田理子（35）が昼の商いを終えようとしている。最後の客が帰って行く。

理子「ありがとうございます！」

理子、テーブルを片し、カウンターへ。

理子「わぁー、今日はしょうが焼き？」

紀一「たまにはこういう賄いもいいだろう？

じゃ、俺は出かけて来るから、さっさと二人で食っちゃまいな。勇介も休憩に入れや」

勇介「はい」

紀一、出て行く。

勇介と理子、テーブルに座わる。

理子「店長、またパチンコね」

勇介「おそらく」

付けっ放しになっていたテレビで、飛行機ハイジャックの速報が流れ出す。

――ニュース速報の放映――

アナウンサー「只今、入って来ました情報に よりますと、この大和航空五三五 便ロサンゼルス発成田行きは日本 時間一四時二十五分頃、東南アジア ア系とみられる男三人にハイジャックされた模様です……」

理子「ハイジャックですって。一大事ねえ」
勇介「日本人乗客も多そうですね。犯人は何

考えてんだ？俺、こういう卑劣なことをする ヤツ、許せないんですよね！」

理子「無事救出されるといいんだけど……あつ、私も食べたら、出かけて来るから」

勇介「理子さんもパチンコですか？」

理子「違うわよ。ネイルサロンよ。勇介くん

は日課の昼寝でしょ？」

勇介「つか、そばを打つってかなりの体力を使いますからね。パワーを充電しないと」

理子「ごちそうさま。じゃ、行って来るわ」

理子、食器を下げ、出て行く。

勇介「いつてらっしゃい。あ、そば粉、また

こんなに付いちちゃってるし」

勇介、テレビを横目にしながら、そのまま横になる。

勇介「さて、一休み。一休み。（思い出したか

のように) あっ、トイレ……ねみい(メンドくさいからまあいいや(腕を組み眠りにつく))

―夢の中―

○ハイジャックされた機内

操縦席。犯人③が操縦士たちに銃を向けている。

張り詰めた客室。犯人②が同じく銃を持ち客室を巡回している。

犯人②「You. Il be dead if you move! (動く撃(ぞー))」

全員が凍り付いている。

その前方では犯人①がCAを人質に取り、銃を向けている。

犯人①「(外国人が話す日本語調で) 俺たちは指名を受けて、この機体に乗っ取った。日本政府との取引は既に始まった。ここにいるおまえらの命は、日本政府によつて決められることになる」

その時、割烹着姿で寝ぼけ顔の勇介が後方トイレの中に。

勇介「やっぱ、トイレ(我に返り) え? ここはどここのトイレだ?」

勇介、シートベルト着用の表示を目にする。

勇介「シートベルト? (少し間を取り、啞然と) はあ? 飛行機?」

勇介、そつとドアを少し開け、外の様子を窺う。

銃を持った犯人たちが見える。

〈フラッシュ〉

テレビのニュース速報の再現。

勇介「もしや今日ハイジャックされた機内のこと? なんて俺が? つか、海外へなんか行ったことも、行く予定もないはずの俺が(啞然)」

鏡を見つめる。

勇介「ああ、これはきつとまた夢だな。俺、絶対夢見るんだよな。ということとは、またヒーロー役ってことだよな。しかし、リアルタイム過ぎる夢だな……つか、どうすりゃいいんだ?」

再度そつとドアを少し開け、外の様子を窺い、また閉める。

勇介「まさに悪役っぽいヤツらだ(考え込む) うむ今回はどうやって退治をすつか

な……退治といえ、殺虫剤!」

トイレのキャビネット内を探す。

勇介「おつ、あった。あった。夢の中って、けつこう思い通りに事が運ぶもんだな(殺虫剤を握り) まずは手前のヤツからだ」

そつとドアを開ける。

勇介「そうそう。そのままこっちへ来い」

犯人②、後方へやって来る。

死角となるパントリリーを横切ろうとするその時、勇介がトイレから飛び出し、殺虫剤を目に吹きかける。

犯人②「Oh, my god!」

犯人②持っていた銃を落とし、両手で顔を覆い、苦しむ。

勇介、銃を拾い上げ、犯人②に向ける。

勇介「なんかかっちょいい銃なんて持ったの初めてだな。まさに映画のシーンだぜ……で、コイツどうしようかな? とりあえず縛るかっ」

口にガムテープ。そしてたくさんのヘッドフォンのコードで縛られた犯人②

勇介「完璧! 次は、前方のアイツか。やっぱ手に持つ銃を離すには、これだな」

勇介、殺虫剤を片手に屈みながら前進する。

啞然とした表情で勇介を見る乗客たち。

勇介「(通り過ぎる際、客たちに小声で) シーツ……大丈夫ですよ……もう少しの我慢ですからね」

通路にボールペンが落ちている。

勇介「(小声で) ちょっとボールペン、お借りします……はいはい。知らん振りしててくださいね……」

勇介、犯人①の近くまで辿り着くと、座席ポケットのゴミ袋を取り出す。

勇介「(小声で) これ、くださいね」

ゴミ袋に、

―犯人に殺虫剤をかけるので、目をギョツと閉じて反対方向を見ていてください―

と書き、再び前進する。

犯人①が余所見をする。

勇介、人質となつているCAに書いたメッセージを見せる。

CA、従い、顔を背ける。

犯人①「(CAに) おい?」

勇介「こっちだよ!」

勇介、犯人①の顔を目掛け、吹き付ける。

犯人①「何すんだああ(顔を覆い、倒れる) 」

る」

勇介「(乗客たちに向って) すいませんが、皆さん、協力いただき、お手元のヘッドフォンで、コイツを縛っておいてください。(C Aに) かかりませんでしたか?」

C A「あつ、はい」

勇介、笑みを浮かべ、操縦室へと。操縦室。残りの犯人③が、操縦士に銃を向けている。

勇介、ドアをノックする。

犯人③「ダン? (仲間と思い、ドアを開ける)」
勇介、スプレーを吹き付けるがカラとなる。

勇介「(焦りながら) マジ? やばい! 超やばいじゃんか! 俺殺される!」

犯人③「(突如) あー! (銃を落とし、咳き込み全身を掻きむしり苦しみ出す) S O B A じゃないか! 俺は S O B A アレルギーなんだあー。くそー!」

○手打ちそば屋

横になっている勇介。

勇介「あー! トイレ! (起き上がる)」

トイレへ行き、戻って来る。

付けっ放しのテレビニュースに気づく。

— ニュース番組 —

リポーター「そうなんですよ。犯人たちは逮捕され、乗客、乗務員全員が無事に保護されましたが、乗り合わせていた乗客らによると、白い割烹着姿の青年が、殺虫剤を犯人たちの顔に拭き付け、取り押さえたとき口になっているのですが、そのような人物は乗客リストにもなく、機内には割烹着を脱ぎ捨てた形跡もないとのこと、警察もこの捜査に首を傾げているのです」

アナウンサー「それは、皆さんの相当な恐怖感から現在も精神的に混乱されているのでしようかね…とにかく、全員無事が確認され何よりでした」

勇介「(愕然) はあ?」

勇介、自分の着ている割烹着を見る。

理子が店に帰って来る。

理子「ただいま。ハイジャック事件、過去異例の超スピード解決だったわね。ほん

と良かったわよね」

勇介「(呆然)」

紀一が戻って来る。

理子「お帰りなさい」

紀一「いやいや、何やら、この休憩時間の間、世間はエライことになってたな…おい、どうした? 勇介。ポーっとしやがって」

勇介「あの…俺…」

理子「まだ目が覚めていないみたい」

紀一「しようがない奴だな。ささっ、開店準備だ!」

紀一と理子、準備をし出す。

勇介「(頬を抓る) イッター! やっぱ、夢だよな」

理子「(勇介に近寄り両手を出し) ふふっ。今回はピンクにしたの。可愛いでしょ? あつ、やだー。あんた臭っ。またゴキブリでも出たの?」

勇介「はあ。確か…三匹ほど…」

〈終〉